

+ 和医看  
推薦突破  
対談



進学 和歌山県立医科大学  
保健看護学部

吉田 奈未先輩

出身 向陽高校

クラブ ソフトテニス部



進学 和歌山県立医科大学  
保健看護学部

中津留 彩優先輩

出身 向陽高校

クラブ 硬式野球部 マネージャー

AC(岡)： 合格おめでとうございます！

吉田・中津留： ありがとうございます。

看護師になりたいと思ったのはいつ頃ですか。きっかけは？

吉田： 中学生の頃から医療関係がいいなとは思っていて。看護にするって本当に決めたのは高2かな。それまでは臨床検査技師とかいろいろ迷ってたんですけど。

中津留： 記憶にないぐらい前で。幼稚園で書いた七夕の短冊に「看護師になりたい」って書いてて。たぶん年長年中の頃から言っていました。きっかけとかは特にはないんですけど。赤ちゃんが昔から好きで、保育士か助産師みたいな感じで。

吉田： えーすごい！私は、家族とか親戚に看護師が多くて。囲まれていたからってというのがあってと思います。

推薦を考え始めたのはいつ頃？

中津留： 入学した時から、内申はとっておきたいとは思っていて。できるなら推薦と1年の時から思っていました。

吉田： 兄から「推薦も狙えるかもしれないし、定期テストは絶対全力で」と聞いていたので。高得点は絶対とっておこうと思っていました。

部活と両立しながら、勉強時間がなかなか確保できない中での勉強法は？

吉田： ソフトテニス部はすごく勉強熱心な子が多かったんです。それに引っ張ってもらっているのもあって。移動時間も勉強をみんなでしようよみたいな雰囲気、遠征行って泊まった時もみんなで1時間自習やりました。大会の前とかも。電車乗ったらみんな横並びで勉強して。

中津留： えー！すごい。私は朝派で。朝は1時間半くらい早く起きて、毎日1時間程度は勉強していました。

AC岡： 家遠いよね。何時起き？

中津留： うーん、5時半から6時頃に。無理な時もありましたけど。できるだけ頑張ろうと思って。テスト前だけじゃなくて毎日。夜まで部活で、帰ったら寝てしまって、夜にはできなかったの、朝やるしかなくて。毎朝やりました。

吉田： えー、私は夜派。でも電車の中では絶対やった。

中津留： 同じ同じ。電車に乗った瞬間にやり始めて、降りるまで。立ちながらやりました。3年間ずっとコロナが流行ってたじゃないですか。それでつり革はあんまり持ちたくなくて。で、立ちっぱなしで耐えながらテキスト開いて。

吉田： 私が乗ってた線もずっと立ち。リュックをおろして単語帳の場所だけ確保して毎日読んでました。

中津留： ずっと一緒に通学していた友達が、2人とも賢くて勉強もすごく頑張ってた子

たちだったから一緒にやりました。

頑張ろうというモチベーションはどこにあった？

中津留： うーん…。テスト期間はヤバかったです。親にも八つ当たりしたり…。

吉田： でもいい点を取りたいっていうのはあったよね。

中津留： 点をとらないとって思ってた。推薦で行きたいからなるべく多く「5」を取らないと。だからやらなあかんって感じ。



吉田： 私は兄が賢くて定期テストとか見せてもらったこともあったんですけど、「これと比べられるのかー。いい点とりたいなー。」って。

受験生になって勉強がしんどかった時期はありましたか？

吉田： 夏休み明けの模試がしんどかった。上がらなくて。夏休みはやっぱ一番勉強するじゃないですか。判定は悪くなかったけど、点数がそんなに上がってなくて。あんなに勉強したのに…って。2学期のはじめあたりはしんどかったです。

## ほぼ毎日、自習室を使っていた理由は？

**吉田：** 私は自習室に通い始めたのは結構遅くて、高3の2学期くらい。それまでは家派で、一人でやっているのが良かったんですけど、集中力がもたなくなってきました。岡先生のセミナーで「勉強場所を変えてみるのもいいよ」という話を聞いて、自習室行ってみたら集中できたから。それで自習室がいいのかなって。で、日曜は家ですって決めてました。

**中津留：** 私も家派だったけど、でも部活を引退して、みんな塾の自習室に通ってたから。自分よりも早く引退した友達とかも行ってたから、流れで一緒に来た感じで。個別ブースの自習室で最初は誰からも見えない壁側の席が好きだったんですけど、それより通路側で背中合わせの方が良くて、最後はそこが定位置になりました。みんな頑張ってる姿が見えるから良くて。

**吉田：** いつ行っても必ずいる人を見かけたり。

**中津留：** そう、それですごいと思って。それを見たら自分もやらなきゃって。

## アカデミーキャンパス入塾のきっかけは？

**中津留：** 友達の紹介で。みんな塾に行き始めてるって聞いて高1の6月頃に。

**吉田：** 私は高2の春から。兄に「ヨッシー（ACクラスライブ授業 - 英語：吉田先生）の授業は受けた方がいいよ」って言われて。英語が得意ではなかったんですけど、受けたらすごく分かりやすくて。身につけてるって実感できるので。教わって良かったなって。



**中津留：** 私も共テの解き方とかがヨッシーのやり方が自分に合っていて、英語だけグンと上がったんですよ、一気に。そこから維持できました。数学は…嫌いだし苦手。定期テストは問題集を3周くらいして暗記って感じだったんです。それで受験生になって初めて共テの模試を解いたときに「ヤバイ、何にも分からない」ってなって。弘明氏（ACクラスライブ授業 - 数学：阪口先生）の授業受けたら、解き方が…「すごっ！」ってなって。

**吉田：** 分かる分かる！すごいしか出てこない（笑）

**中津留：** 教えてくれる解き方をしたら「解けるやん！」みたいな。



## 面接準備・小論文対策はいつ頃から？

**中津留：** 夏休みの終わりくらいから、「面接ノート書かない」とはずっと思っていて、校内選考で決まってからわーっと集中してやりきってました。

**吉田：** 面接の準備は、校内選考で決まっていたからだったかな。「自己を語る」（推薦入試に必要な自己推薦書）に書いたことから抜粋する感じで。なので、先にそっちを書く方が時間がかかりました。

**中津留：** 私は逆に「自己を語る」は早かったです。学校で高2の時に志望理由書の練習をする時間があった。そこで、だいたいこれ書こうっていうのができていたので、書く時がきたらすぐできました。

**吉田：** 小論は学校と塾の課題で結構量があったんですけど、それを共テの勉強の間にするのがしんどかったです。自習室でみんなが問題解いている中、ガリガリガリ…って（笑）いっぱい書かないといけなくて。共テの勉強しないとヤバいなあーって思いながら。他の勉強もしながら小論文対策する感じでした。

**中津留：** テスト期間あけた10月くらいからは推薦の対策してたかな。でも他の勉強もやってました。小論は90分で書いた後に直しをして、あとは共テの勉強して。で、小論は毎日書くようにはしてました。文字数が多いので、最初は時間が足りなかったの、とにかく数をこなさないって。それで毎日1個は書いてました。

## 大学で楽しみなことは。その後は看護師？保健師？助産師？

**吉田：** 運動系の部活はしたいなって思ってます。バレーとか。

**中津留：** 何かのクラブには絶対入りたいけど、迷ってる。でもマネージャーじゃなくて、やる側で。ダンスとか。

**吉田：** 保健師の資格はとるかもしれないです。とれるなら。助産師も学んでいくうちに取りたいって思ったら挑戦しようとは思ってます。

**中津留：** 私はどっちもとりたいなって今は思ってます。

## 後輩にメッセージ

**中津留：** 推薦狙いたい子だったら、定期テストは絶対にめっちゃ頑張らないといけないと思うけど、勉強ばかりになるんじゃないって、今しかできない部活とかも大事だと思う。引退して後悔とかは全然ないんですけど、部活がある時に戻りたいって今でも思うくらいなので。だから、部活やってる子だったら勉強も頑張りながら、部活も頑張っ、みんなといられる時間を楽しむことも大事にしてほしいなって思います。

**吉田：** 私も部活は楽しいから引退したくなかった。6月で終わってから寂しい気持ちになるので、部活を一緒にできる子たちのことも大切にしてほしいし、自分の勉強と部活への努力も大切にしてほしいなって思います。

## インタビューを終えて

吉田さんは「患者さんやそのご家族に安心感を与えられるような看護師になって地域医療に貢献したい」という夢を持ち、中津留さんは「患者さんの気持ちを汲み取り、心の面で支えることができる看護師になりたい」という夢を持っていました。部活動というその瞬間瞬間を精一杯頑張りながら、自身の思い描く「なりたい自分になる」ために、3年間という長い視点を持って勉強も頑張りまし



## Academy Campus

た。定期テストの点数を取り続けるための多くの努力と、自分の夢を実現するための多くの我慢の結果が、二人の第一志望合格に繋がったのだと思います。

部活動の仲間と支え合い、励まし合いながら、毎日明るく元気に勉強していた姿が、本当に印象的でした。大学生になっても、高校生活と同じように、勉強や様々なことに精一杯向き合い、持ち前の明るさを武器に、充実した大学生活を送ってください。二人なら、必ず和歌山の医療を支える素晴らしい看護師になれると確信しています。

本当に合格おめでとう！これからも頑張ってください！

ACカウンセリングスタッフ 岡 哲司